

平成17年度 校内共同研究計画

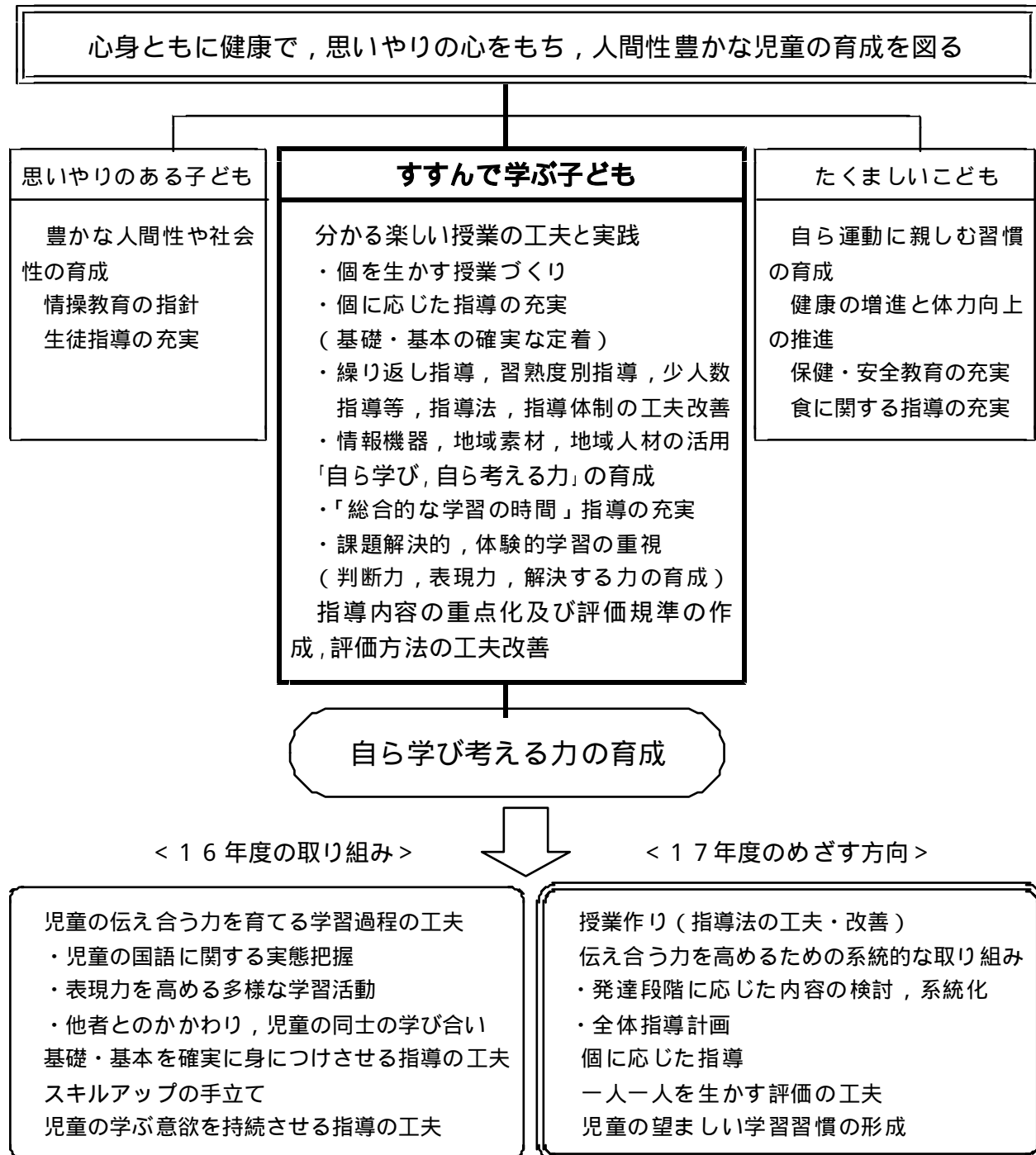
1. 研究テーマ

すすんで学び 豊かな表現で伝え合う児童の育成
～国語科における「話すこと・聞くこと」の指導の工夫を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

(学校教育目標)



(2) 学習指導要領改善の基本方針，及び国語科のねらいから

教育課程審議会の答申における国語科改善の基本方針として、「国語に関する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成する」に重点がおかれている。

こうしたことは、これまで文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育てることを重視しており、国語科指導の質的な変換が求められている。

その結果、国語科の教科目標としては、これまで培われてきた国語の表現力と理解力の育成に加え、互いの立場や考えを尊重する尊重しながら言葉で伝え合う能力の育成を重視して、新たに「伝え合う力を高める」ことを目標に位置づけている。

一方、国語の能力や国語に対する関心・態度は、国語科だけではなく、他教科、道徳及び特別活動、総合的な学習の時間などの学習、さらには学校教育活動全体、家庭や地域での生活の中で身につくことも多い。そうした意味においては、国語科の学習の中だけでなく、それ以外のあらゆる機会を視野に入れて、それらとの関連にも配慮した指導計画、学習内容、学習方法を工夫することが大切である。同時に国語力の育成が児童の全ての学習や日常生活の基礎となっており、国語科教育の重要性が大きいと考える。

(3) 児童の実態

児童の実態を把握するため、子どもたちの学校生活や教科指導の中で見られる言語環境や国語の実態、子どもたちに育てていきたい力等、普段教師が感じることをお互いに出し合い、KJ法で分類、学校全体としての傾向や指導の重点項目の洗い出しを行った。

< 国語に関する全体的傾向 >

－全体的傾向（プラス面）－

- ・音読が好きで、みんなの前で読みたがる。
- ・作文や日記を書くのが好き。自分の思いを素直に表すことができる。
- ・自分の意見を発表するのが好き、教師に聞いて欲しくて手を挙げる子が多い。
- ・漢字練習を好む。（テストでは実力差があるが、練習自体は好んで頑張る。）
- ・読書を好む。時間を見つけては本を読んでいる。

－全体的傾向（課題となっている面）－

- ・友達との気軽な会話だと話せるが、改まってみんなの前で発表だと声が小さくなりがち。
- ・相手に分かるように話すことがうまくできず、単語だけで用を済ませてしまうことが多い。
- ・単語でしか話せない子、何も言わず黙って持ってきたものを差し出す子が多い。
- ・自分の意見の発表の結び（以上です。終わります）等、きちんと言えない。
- ・字を丁寧に正しく書く子は少ない。行を考えず自分流の子が多い。
- ・自分の思いを言葉で表現するのが苦手な子が多い。
- ・友達の話や先生の話を中心して聞くことが苦手。すぐ自分のことを言いたくて口をはさむ。
- ・話をしっかり聞こうという意識が持続しない。
- ・前に出てから、話し出すまで時間がかかる子が多い。
- ・場に応じた声の大きさを話せない。（自分の声の大きさが分かっていない）
- ・大きな声ではきはきと発表できる子は少ない。

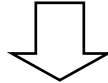
－ 特支児童の実態 －

- ・「人前に立つ」となると気持ちが固くなってしまい、やる気が戻るまでやや時間がかかる。
- ・話す気持ちになれば、たくさん話せるが、発音が不明瞭な音や早口になりやすいため、うまく聞き取ってもらえず、結果意欲をなくしてしまうことがある。
- ・共感的に話を聞いたり、指示や指導を極力控えたとき、生き生きと良く伝わる話し方をする。

－ 個人差にかかわる課題 －

- ・進んで発言・発表をする子と、ほとんど話せない子など、個人差が大きい。
- ・集中して話を聞けることそうでない子の差が大きい。

めざす子どもの姿



- ・自分の言葉で話せる。
- ・根拠を明確にしながらか説明や話ができる。
- ・言葉づかい・声の大きさ・話す態度など、場に応じた話し方ができる。
- ・内容を工夫して話したり、集中して話を聞いたりしたりできる。
- ・自分の思いや考え等を進んで発表できる。



指導の重点

- ・場に応じて、適切に話ができるようにする。(声の大きさ、言葉づかい、話す態度)
- ・相手に分かりやすく話す(話の結びまできちんと話す)
- ・論理的に説明する力を伸ばす。(意味づけ、理由づけ)
- ・進んで表現しようとする意欲を高める。
- ・話を聞く態度の育成
- ・個に応じた指導の充実

3. テーマのおさえ

「豊かな表現で伝え合う」とは

児童一人一人が、課題・疑問・思いなどに対して、知識や技能を生かしながらか、主体的に他者に伝えようとする様子を「豊かな表現」と捉える。

具体的には、学習過程や発達段階に応じて、以下のような状態に達している時に、「豊かな表現で伝え合っている」と捉える。

関心・意欲・態度が高められ、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとしている状態

自分の思いや考えを適切な表現で伝えようとしている状態

思考・判断しながら相手に効果的に伝えようとしている状態

他者とのかかわりの中で、自分の思いや考えを深めながらか伝え合う状態

4. 研究目標

国語科の「話すこと・聞くこと」の領域において、児童の伝え合う力(コミュニケーション能力)の育成を実践を通して明らかにする。

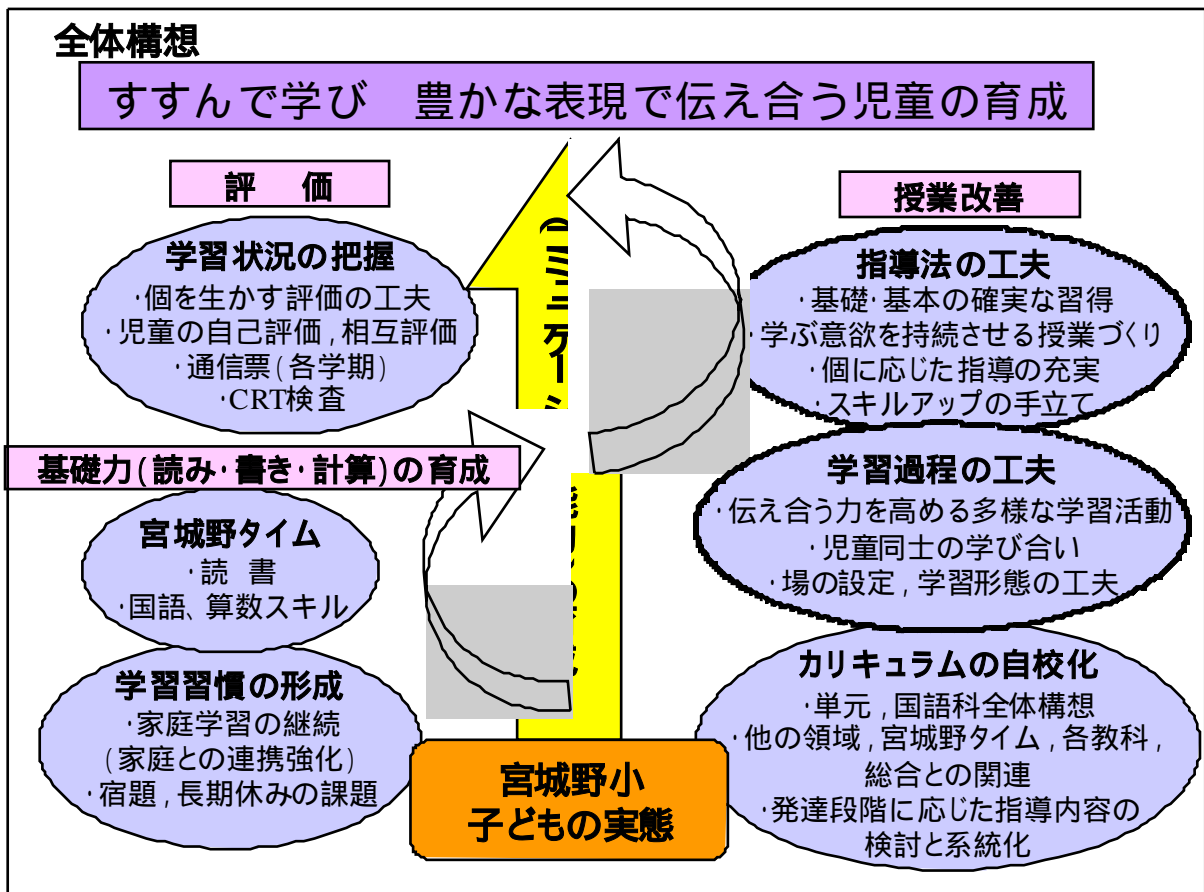
5. 研究仮説

「話すこと・聞くこと」の指導の工夫を通して、伝え合う力を高めれば、児童は進んで他者とかかわり、コミュニケーションを図ろうとするであろう。

6. 研究内容

年度	研究内容（主な重点内容）
16年度	児童の伝え合う力を育てる学習過程の工夫 ・表現力を高める多様な学習活動 （他の領域，各教科・総合・特活，宮城野タイム） ・児童の同士の学び合い 基礎・基本を確実に身につけさせる指導の工夫 スキルアップの手立て 児童の学ぶ意欲を持続させる指導の工夫
17年度	授業作り（指導法の工夫・改善） 伝え合う力を高めるための系統的な取り組み ・発達段階に応じた内容の検討，系統化 ・全体指導計画 個に応じた指導 一人一人を生かす評価の工夫 児童の望ましい学習習慣の形成

7. 研究全体構想図



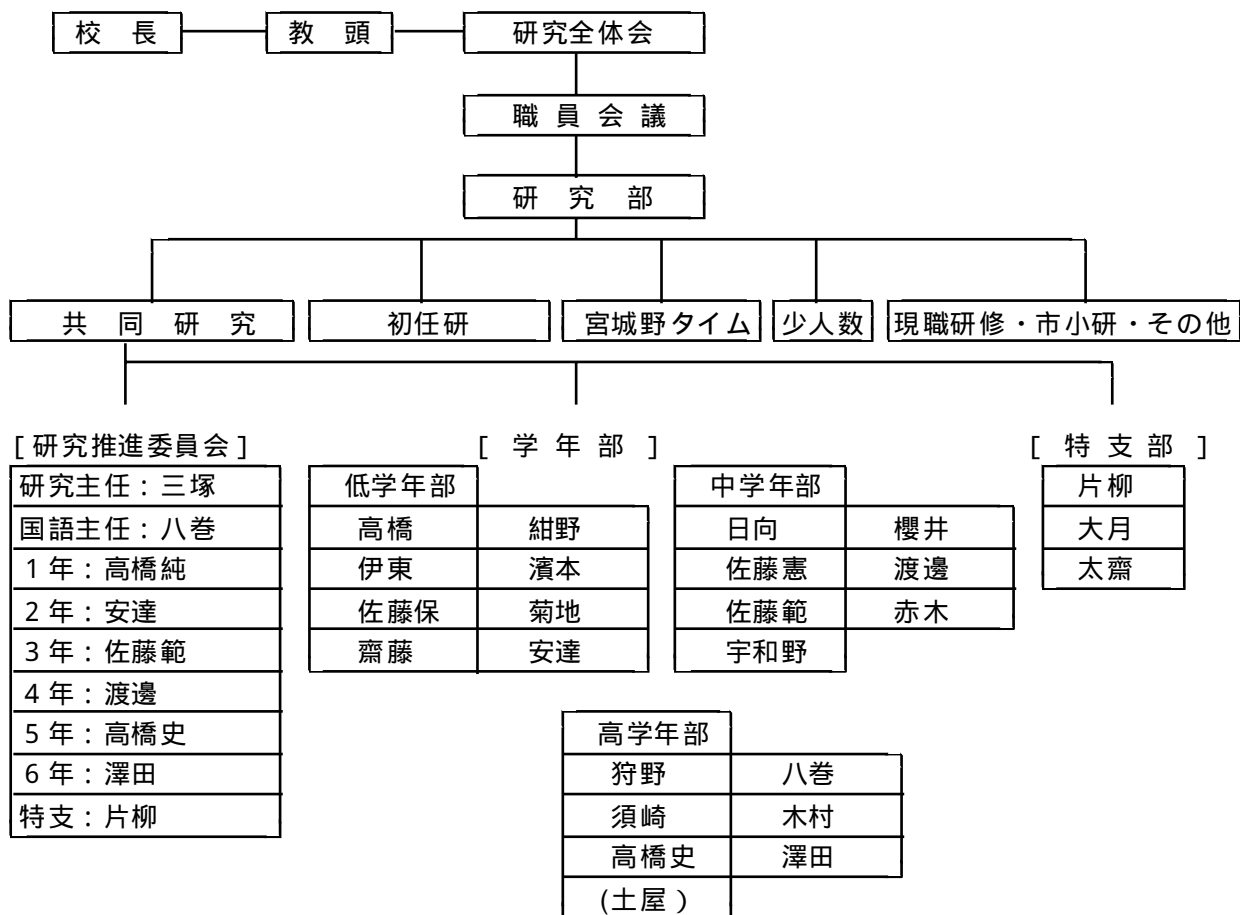
8. 研究の方法

- ・国語科のねらいを踏まえ，研究の実践は各学年部とする。
- ・国語部ならびに国語主任と連携を図りながら研究を推進する。
- ・研修日を設定し，研修内容の充実と実践のための時間を確保する。
- ・研究計画に基づいて各種調査や理論研究を行い，授業研究ならびに事後検討会を通してその成果

を公開する。

- ・実態調査や授業実践を通して児童の実態や変容を把握し，指導の改善に努める。
- ・年2回研究全体会を開催し，研究推進に関する共通理解，研究成果の確認，次年度の方向性等を検討する場とする。
- ・先進校の視察，外部講師を招聘しての学習会等を企画し研修を深める。
- ・研究推進員が中心となって共同研究全般の計画立案，実施，運営，研究授業のサポート，紀要の編集等を行う。

9．研究組織



10．授業研究について

授業計画

【全校授業】年6回実施

- * 各学年1こまの提案授業を行う。
- * 全職員で授業を参観することを基本とするが，実態に応じて全体提案，学年部提案に分けて研究授業を行うことも可とする。(年度当初に学年部会であらかじめ決定しておく)
- * 参観した授業については，可能な限り事後検討会に参加する。
- * 今年度は，教育センターの学習指導訪問を要請し，授業づくりの支援を受ける。(9月予定)
- * 全職員参加の指導案検討会をもち，よりよい授業のあり方をさぐる。

【その他】

- * 必要に応じて，学年又は学年部主体の授業を実施する。(先行授業等)
- * 他の学年にも声をかけ，多くの職員が授業を参観できるようにする。

指導案

- ・先進校の資料を基に推進委員会で検討し，提案する。
- ・授業研究実施の数日前には指導案を配布し，熟読してもらうようにする。

授業記録

- ・学年部で検討の上，必要に応じて授業記録をとり，資料として残す。
- ・ビデオ，記録写真等の撮影を必要に応じて行う。また，学年部内での人員が不足する場合には，他学年の推進委員に依頼する。

授業検討会

- ・各学年部は研究授業の事後検討会を主催する。司会，記録等の役割は全職員で分担する。

記録の保存

- ・指導案，授業記録，事後検討会の記録等は，研究主任に各1部を保存用として提出する。
- ・各種資料は，研究紀要作成の際に必要なため，各学年部で保存しておく。
- ・今年度は，印刷物とデジタルデータ（フロッピー等）の両方で提出してもらう。

11. 研究計画

月	校 内 研 究	実 技 研 修	行 事 等
4	・学年会・研究推進委員会 ・研究全体会（今年度方向確認） ・学年部研究計画立案	・コンピュータ研修	・入学式 4/8 ・授業参観 4/23 ・遠足 4/28
5	・研究推進委員会 ・研究授業		・運動会 5/21 ・修学旅行 5/31～
6	・研究推進委員会	・救急法講習会 （今年度はPTAとは別に実施）	・野外活動 6/13, 15 ・授業参観 6/24
7	・研究推進委員会		・若菰まつり 7/6 ・家庭訪問 7/21～
8	・研究推進委員会 ・学習指導訪問1（指導案検討会）8/22	・コンピュータ研修	
9	・学習指導訪問2（研究授業）9/13 ・研究授業		・陸上記録会 9/20
10	・研究推進委員会 ・研究授業		・学習発表会 10/29
11	・研究推進委員会 ・研究授業	・書き初め展実技研修会	・持久走大会 11/11 ・半日参観 11/22
12	・研究授業	・コンピュータ研修 ・教育相談研修会 ・市教育課題研究発表会	・個人面談 12/6～
1	・研究推進委員会 ・研究のまとめ	・体育実技研修会	・書き初め展 ・市図工展
2	・研究推進委員会 ・研究全体会		・スケート教室 2/1 ・スキー教室 2/3
3	・研究推進委員会 ・研究集録完成		・授業参観 3/2 ・卒業式 3/17 ・修了式 3/24

12 国語科 基礎・基本系統表(子どもたちに育てたい力)

『話すこと・聞くこと』

宮城野小学校 研究部

領域	育てたい力 目標	低学年で育てたい力	中学年で育てたい力	高学年で育てたい力
	基礎的・基本的力	(目標) 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる	(目標) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる	(目標) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる
話すこと	関心・意欲・態度 意志を伝える力 双方向の会話・対話力 的確な表現で話す力 要領よく話す力 効果的な表現の工夫 言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ・話したいことを見つけ、進んで話す ・知らせたいことをはっきりさせて話す ・聞き手をよく見て、終わりまでしっかり話す ・事柄の順序を考え、わかりやすく話す ・簡単な話形を使って話す ・具体物を利用したりして話す ・姿勢、口形などに注意し、はっきりした発音で話す ・場に応じた声の大きさや言葉づかいで話す ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気がつけて話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで話し、考えを伝えようとする ・自分の考えや思いをはっきりさせて話す ・聞く人の気持ちや立場を考えて話す ・順序や話の中心をはっきりさせて話す ・話の組み立てを考えて話す ・資料を活用しながら工夫して話す ・目的に応じた適切な音量や速さで話す ・相手や目的、場にふさわしいことばづかいで話す ・修飾語、指示語、接続語などを理解して話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えることを意識して話そうとする ・自分の意志や思いをはっきりさせて話す ・聞く人の気持ちや立場を尊重して話す ・順序や話の中心を考えて話す ・時間を考えて計画的に話す ・資料や例示等を工夫して効果的に話す ・聞き手や場に応じて音量や語調などに気をつけて話す ・日常において使われる語句が適切かどうか考えて話す ・相手や目的、場に応じて尊敬語や謙譲語を用いて話す
聞くこと	関心・意欲・態度 正確に聞き取る力 話題の質を判断する力 考えながら聞く力 比較しながら聞く力 メモする力 感想をまとめる力	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の顔を見て、しっかり聞こうとする ・順序を意識し、大事なことを落とさずに聞く ・話し手の上手なところや工夫に気づく ・話し手が伝えたい事柄を考えながら聞く ・自分の経験と比べながら聞く ・わからなかったことは、後でメモをし尋ねる ・聞いた後の感想を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手が伝えたいことを考えながら聞こうとする ・話の内容や筋道を正しく聞き取る ・話し手の話題作りや表現の工夫に気づく ・互いの考えの共通点や相違点を考えながら聞く ・自分の経験や考えと比べながら聞く ・必要なことをメモをとりながら聞く ・自分なりの意見や感想を持ち、まとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を働かせながら聞こうとする ・話の内容と相手の立場を正しくはやくとらえる ・話す事柄の適否を聞き分ける ・話し手の立場や目的、意図を考えて聞く ・事実と感想・意見の違いを区別しながら聞く ・要点を素早くメモする ・話し手の意図を考えながら、自分の意見や感想をまとめる
話し合うこと	関心・意欲・態度 立場を明確にする力 進行する力 記録する力 報告する力	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで話し合いに参加する ・話題からそれないように話し合う ・話し合いの仕方を知り、ルールにそって簡単な話し合いができる(1対1や少人数での話し合いから、徐々に人数を広げた話し合いができる) ・話し合いで決まったことを記録する ・記録したことをみんなの前で報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの中心となることに目を向けて、目的を持って話し合う ・自分の考えをはっきりさせて話し合う ・話し合いの進め方を理解し、ルールに沿った話し合いができる ・相手に投げかけたり、問いかけをしたりしてより多くの考えを引き出す ・話し合う内容がそれないよう、意見を取り上げる ・話し合いで決まったことを記録する ・記録したことをわかりやすく報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通理解や問題解決に向けて、目的を持って話し合う ・自分の立場や意図をはっきりさせて話し合う ・話し合いの進め方を理解し、要領よく話題を展開していく ・相手に投げかけたり、問いかけをしたりしてより多くの考えを引き出す ・話し合いの方向性をつかみ、まとめたり、広げたりする ・話し合いで決まったことやその過程を要領よく記録する ・記録したことを整理し、わかりやすく報告する